

ぼけを生かした写真表現

1. 「背景ぼけ」と「前ぼけ」

- ・「ぼけ」を積極的に使うと、優しさや柔らかさが強調され、独特の雰囲気を出すことができます。
- ・「ぼけ」には、背景をぼかす「背景ぼけ」と、主役の前にぼけを入れる「前ぼけ」があります。

背景をぼかすには、以下の条件が揃うほど、良くぼけるようになります。

撮像素子が大きいカメラを使用すると良くぼける

絞り値の小さいレンズを使うほど良くぼける

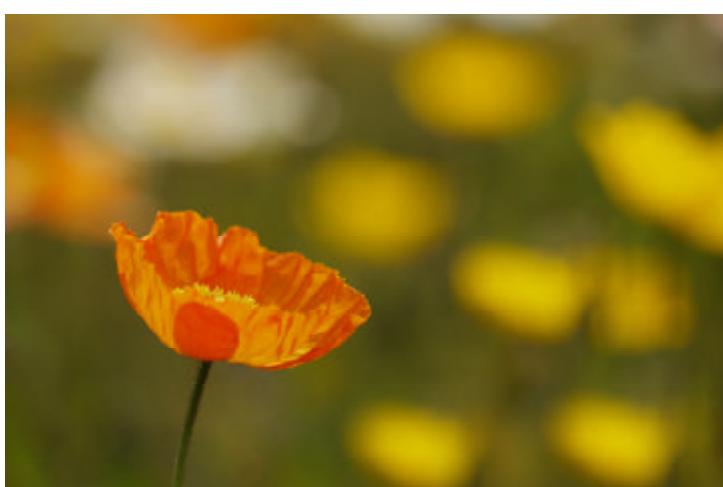
焦点距離の長いレンズを使うほど良くぼける

主被写体にカメラを接近して撮影するほど良くぼける

主被写体と背景の距離が離れていればいるほど良くぼける

から、までは、使用するカメラ機材の性能に依存しますが、この条件は撮影者
が意識すれば良い項目です。

背景をぼかすには、主被写体に「出来る限り近づく」と「主役と背景との距離
が離れている」被写体を狙うことで、大きくぼかすことが可能となります。



この画像は、メインの被写体が
オレンジ色のポピーですが、背
景になるほかの黄色のポピーが
かなり離れていたので、ほど良
くぼけてくれました。

前ぼけも、以下の条件が揃うほど、良くぼけるようになります。

撮像素子が大きいカメラを使用すると良くぼける

絞り値の小さいレンズを使うほど良くぼける

焦点距離の長いレンズを使うほど良くぼける

前ぼけの材料とカメラとの距離が近いほど良くぼける

から までは、使用するカメラ機材の性能に依存しますが、 の条件は、撮影者が意識すれば克服できる項目です。

前ぼけを作るには、前ぼけにしたい被写体の直前にレンズをおいて撮影すれば良いのです。



主役にしたのはポピーのしべですが、主役の前に出ていた、別の花びらを前ぼけに使いました。

前ぼけに使った花びらとレンズとの距離は約 3 cm で、幻想的なぼけを入れることができました。

このように、前ぼけとしたい物体を、レンズの直前に置くことが出来れば、使用するカメラ機材の影響を受けずに、効果的なぼけを作ることが可能となります。

2. ぼけを入れる場合の画面構成で留意すること

主被写体とぼけは対角線上に配置しましょう。それと、ぼけの大きさはこの構図の場合は、主被写体より多少小さくなるように配慮しましょう。



前ぼけの面積を全体の60%以上になると、主被写体が引き立ちます。

